

トライアル社長

牧原道夫

S 29年1月生まれ 血液型A
鹿児島県出身



トライアルのS1302がチューンドカー最高速の新記録307・95km/hを出した。これはあの光水バンテラを凌ぐ快挙だ。関係者は当然喜ばず注目した。エンジンには7ターボが1足回りほどと。しかし、僕が一番気になったのは、一体どんな人がその車を作ったのか。なぜ人よりも速い車を作る気になったのかということ。はつきりいって、最高速を出すことが即売場に結びつくとは思えない。それなのにどうしてチャレンジし、レコードを出したのか、ということだ。

さっそく東大阪にあるショップ、トライアルに足を運んだ。この世界にながらその注目の人牧原さんと話をした事はなく、いつもながら一体どんな感じの人だろうと少し高い声で誘導してくれた牧原さんは真赤なツナギを着て両手をポケットに入れて、イメージはちょっとどばてつやのコミックに出てくる鉄兵、もしくは風松くんといった感じが、僕を見ている彼の眼は猫科のそれと同じくらい鋭い。僕は自分の意向を伝えてから質問を始めた。

スピードには言葉で表現で去ん何かがある

—— いっ頃からチューニングするようになったのてすか。

牧原 いったんつかない、もう忘れてもうたて、そうやな。アルバートの頃入れても12年ぐらになるかな。

—— アルバートがきっかけですか。それはどこで?

牧原 実の兄がカーショップ・チャレンジのオーナーで、そこでアルバートした。18で免許取ってすぐやったな。

—— ということは18歳になってすぐ免許を取られたんですね。最初の車は何でしたか。

牧原 最初は一発試験の方やった。3回目を受けた。初めに買ったのはRX3。当時はサバンナがムチャクチャ流行ってたから、新車で確か79万円やったと思うわ。また10Aしかない時でGS-IIという奴やった。それ買っ、真赤のツナギを自分でアミラーにしてレーシングタイヤ履かせたらな。フロントもリヤもスポイラー付けさせた。

—— 12年前にそれだけやっていたら結構目立たんじやないですか。

牧原 目立った。S30よりもカッコイイいわれた時もある。しかしオレの周りにはみんなそんな奴らばつとかやっただか、ノーマルなんかで乗ってたらその方がかえって目立つた。よく、暴走族ゆう言葉もなかつたけど、よく7・8台で走り回ってたな。今という走り屋ともちょっと違うってな。

—— 族でも走り屋でもないという、何だったんですか。

牧原 どの道違うな。とにかく走り回つてやあみんなてたべつた。それも車と女の話だけな。そのままだも気が持ちは年取ってないもりやけどな。

—— RX3の後はどんな車に乗られたんですか。

牧原 ようけに乗った。RX3の後はZだけで白は乗つたし、トヨタ二発、三菱はGT-Oとかセレスも乗ったな。外車はシロワコゴ、いやな。とにかく数多く乗った。RX3は3ヶ月で壊れた。なんてやろ。

—— それだけ乗るといんな車の特徴みたいなのも分つたでしょうね。

牧原 結果的に車よりもメーカーの特性みたいなものが



分つたな。メーカーごとに何考とんのかを知ることができた。これは今でも役立つもんで。

—— その頃かやっばりスピードには興味があった。

牧原 スピードには魅せられたな。言葉で表現できん何かがあるやろスピードには、あの頃はムチャクチャしよったな。外で走り回つて家に帰つてからトンの中で思ひ出すと、恐ろしくてガタガタ震えたことがよくあった。今考えても恐ろしいわ。

牧原さんはとても表情豊かな人だ。両手をヒザの上におき、話に熱が入ると握りこぶしをつくる。

—— さて、いよいよ307・95km/hの話なんですけど、技術的な面から話してもらえますか。

牧原 ツインターボ、フラス、キアプウんはあれがデビュー作やったやろ、理論上ではシングルタービン

を大きくするよりも、ツインにした方がより多く空気を送れるのはわかってた。でも手元にあるのは

シングルターボのセツティングデータだけやろ、ゆう